

# 中学校建設と 教育環境の整備



田村 計久

昭和36年建設の湯沢中学は2度にわたる大地震と幾度もの豪雪に耐え私達を送り出してくれた。しかしながら施設の老朽化が進み、ここで学ぶ子供達にとって安全な施設とはいえない。執行部は湯沢高校の施設及び土地の買収を考えるに際し、中学校の建替えや今後の教育行政のありかたを検討したことと思う。次の項目について伺う。

## 中学校建設について

### 質問

湯沢高校施設及び土地の取得時期と金額は。

### 町長答弁

湯沢高校閉校に伴い20年4月に購入を予定、文教財産として1億7千300万円であるがこれまで1億7千400万をグラウンド整備校舎移転などで投入したので購入額については県とさらに交渉する。

### 質問

これまでもノリタヤ中子

分譲地など町有財産として購入したが利用目的が果たせず、荒地となっている。中学校移転の仮校舎に使用したいようだが、その後の利用計画はあるか。

### 町長答弁

いくつかの提案をいただいているのでさらに有効利用のために検討する。

### 質問

中学校建設検討委員会の立ちあげと委員会構成は

### 町長答弁

平成9年の調査で危険建物と診断され建設がいそがれる。19年度早期に15名程度の委員を選考して委員会を立ち上げる。委員構成は議会にはかる。

### 質問

中学校建設年次と、建設金額、資金計画は

### 町長答弁

建設については平成24年前後になるのかと思う。金額は22〜24億くらいか（10学級編成規模）資金計画に

については県と補助金などの打合せをして決めたい。

## 教育環境の 整備について

### 質問

少子化が急激に進むなか複式学級が増加するなど、本来に児童のことを考えるなら発達段階に応じた様々な経験、協調性や社会性を養う必要がある。それなりの集団のなかで人間関係を学ばせなければならぬと思うが、どうか。

### 教育長答弁

少子化は深刻な問題であるが地域のコミュニティの中心であるなど、直接意見を聞いたわけでは無いが統合には異論も多い、しかし将来のことも考え、取り組む必要がある。

### 質問

湯沢高校用地の利用を中学校建設と合わせ、将来の小学校のありかたについて

も検討し、湯沢の教育方針を決定する必要があると思うが伺う。

### 教育長答弁

将来を考えると中学校建設に合わせ検討しなければならぬ。十分な敷地もあり文教財産として購入することでもあり、中学校建設検討委員会において、今後の湯沢の教育の課題として小学校の統合を検討してもらう。



平成20年3月閉校になる県立湯沢高校